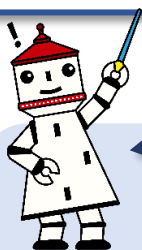


令和7年度長岡市水道事業の決算概要について



決算の概要は、次のとおりです。
以下の項目ごとに解説していくね！

※下線箇所をクリックすると、そのページに移行します。

1 給水状況 . . . 2 ページ

令和7年度末における給水状況は、給水人口234,868人、年間配水量3,100万 m^3 、そのうち料金収入の対象となった水量（有収水量）は2,656万 m^3 となりました。前年度と比較し、給水戸数は横ばいであったものの、給水人口は2,589人減少しました。それにより年間配水量は49万 m^3 、年間有収水量は33万 m^3 の減少となりました。

ここでは、直近5年間の給水状況を踏まえ、令和7年度について説明します。

2 水道管や施設の整備（建設改良費） . . . 3 ページ

安全で安心な水を安定的にお届けするために、令和7年度は35.7億円を投じて水道管の布設替えや耐震化、浄水場などの設備更新を実施しました。また、主要事業のうち大規模な与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業では、送水管の布設や三島ポンプ場建設工事などを実施し、三島地域については妙見浄水場の給水区域となりました。

ここでは、令和7年度に実施した建設改良事業について説明します。

3 財務諸表から見た財務状況 . . . 4 ページ

水道水をつくるための収益と費用（消費税抜き）では、収益52.5億円に対し、費用は49.7億円となり、収支差引き2.8億円の純利益が生じました。

事業収益は、基幹収入である給水収益（水道料金収入）が減少し、能登半島地震災害応急復旧にかかる費用負担金が皆減したことなどにより減少しました。一方で事業費用は、労務費の上昇の影響により委託料などが増加したほか、固定資産除却に伴う資産減耗費などが増加したことにより、2.9億円（6.3%）増加したため、純利益は前年度から3.9億円（▲58.7%）減少しました。

老朽化した水道管の布設替えや設備などの更新費用は、主に内部留保資金や企業債（借入金）を財源としており、16.9億円を借り入れて事業を実施しました。

当市の財務状況については、3つの財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）をもとに説明します。

4 水道料金とその使いみち . . . 7 ページ

ここでは、皆さまからいただいた水道料金がどのように使われたのか、水道事業の特徴を踏まえて説明します。

（注）当資料の数値は、原則として単位未満で四捨五入しています。このため、決算書の数値と一致しない場合があります。

1 給水状況

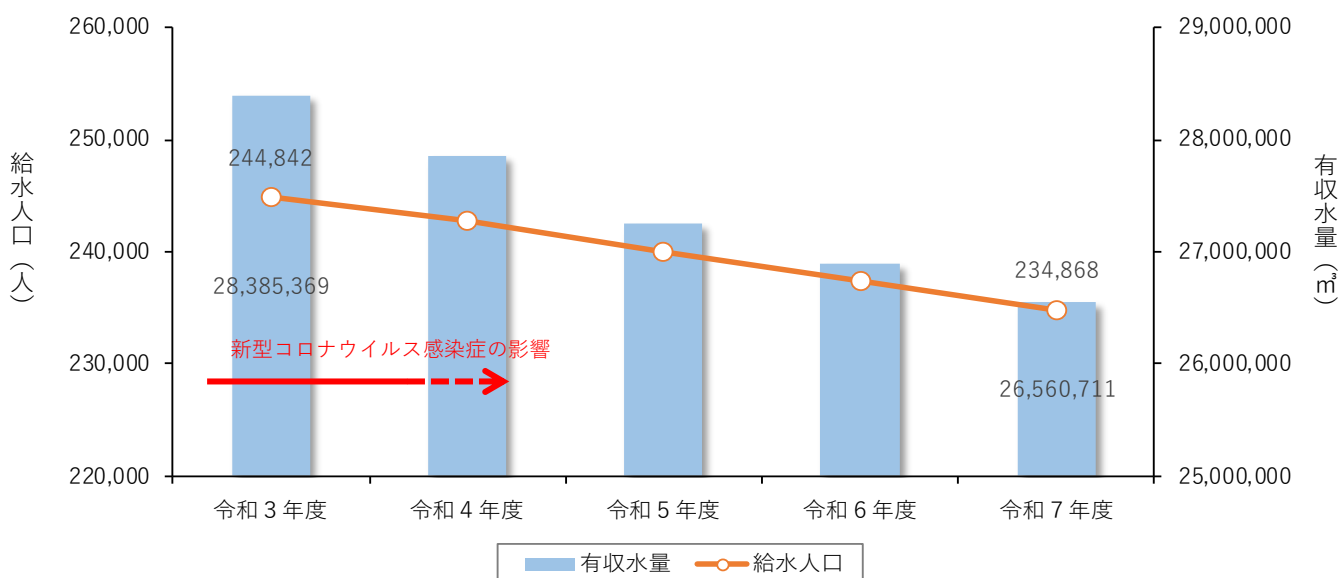
給水戸数は増加傾向にあるものの、給水人口及び有収水量ともに減少傾向にあります。有収率は、80%台半ばを推移しています。

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
給 水 人 口 (人)	244,842	242,706	239,932	237,457	234,868
給 水 戸 数 (戸)	107,340	107,591	107,675	107,675	108,001
配 水 量 (m ³)	32,995,621	32,657,994	31,845,055	31,483,708	30,996,574
有 収 水 量 ※ ¹ (m ³)	28,385,369	27,851,231	27,250,125	26,891,227	26,560,711
有 収 率 ※ ² (%)	86.03	85.28	85.57	85.41	85.69

※1 配水量のうち料金徴収の対象となった水量

※2 配水量のうち有収水量の割合

給水人口と有収水量の推移

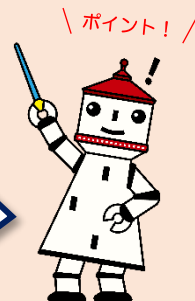


令和7年度決算における給水状況

◆給水戸数と給水人口

宅地造成や世帯分離などにより給水戸数は横ばいですが、少子化などによる自然減や、就職などで転出者が増えたことから、給水人口は減少傾向にあります。令和2年度以降は著しい減少傾向が見られ、毎年度2,000人を超えている状況です。

人口減少は、水道水を使う人も減ることになり、有収水量に大きな影響を与えているんだ。
これは水道料金収入に直結するので、今後も人口の動きには注視が必要だね。



◆有収水量

給水人口の減少により、家庭用 (▲283,263m³) が減少したほか、業務営業用 (▲79,426m³) や工業用 (▲6,074m³) が減少したことにより全体で330,516m³ (▲1.2%) 減少しました。

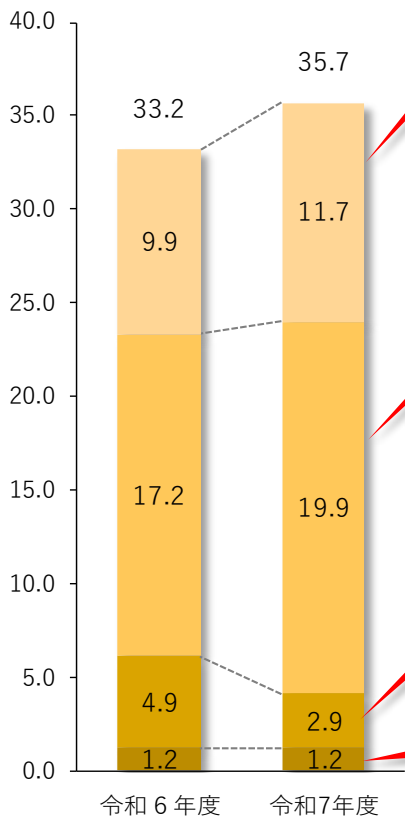
▽用途別有収水量の前年度増減比較 (m³)

用 途 別	令和7年度	令和6年度
家 庭 用	▲283,263	▲221,705
業 務 営 業 用	▲79,426	▲86,408
工 業 用	▲6,074	▲41,017
そ の 他	38,247	▲9,768

2 水道管や施設の整備（建設改良費）

水道事業は、浄水場や配水池、水道管など多くの施設や設備があります。これらの整備には多額の費用が必要となるため、「[長岡市水道事業経営戦略](#)」の投資計画に基づき、以下のとおり実施しました。

（億円） 建設改良費の前年比較



◆与板・寺泊浄水場の妙見浄水場への統合事業

妙見浄水場の給水区域を拡大するため、送水管の布設や配水施設の建設工事などを行いました。

- ・送水管の布設 $\phi 200\text{mm} \sim \phi 400\text{mm}$ L=4.6km
- ・三島ポンプ場建設工事 ほか

◆水道管の更新、ポンプ場などの施設整備

漏水や濁り水を減らすため、老朽化した水道管の耐震管への布設替えや、老朽化した設備の更新工事を行いました。

- ・水道管の布設替え $\phi 50 \sim 300\text{mm}$ L=5.0km
- ・青葉台ポンプ場送水ポンプ更新工事 ほか

◆浄水場の施設整備

安全な水を安定的に供給するため、浄水場の設備などの更新工事などを行いました。

- ・妙見浄水場監視設備更新工事
- ・水質検査センター受変電設備更新工事 ほか

◆その他（事務費、資産購入費など）

令和7年度に実施した建設改良事業について

建設改良事業は、「[長岡市水道事業経営戦略](#)」に基づいて事業を展開しています。

主要事業の1つである与板・寺泊浄水場の妙見浄水場の統合事業は、送水管を4.6km布設したほか、三島ポンプ場建設工事などを実施しました。

また、安全な水を安定してお届けするため、老朽化した水道管の布設替えや、設備などの更新を進め、水道管の布設替えにあたっては耐震管を採用しています。

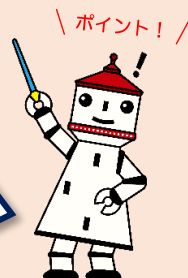
既存の水道管や浄水場などの施設は、今後も適切な維持管理により長寿命化を図るとともに、計画的に更新を行っていきます。

なお、更新にあたっては、水の使用量の減少を踏まえ、適正な規模への見直し（ダウンサイジングなど）を行っています。



（三島ポンプ場）

蛇口をひねれば、安全でおいしい水が出る。この当たり前の光景を守るため、効率的な施設運用ができるよう計画的に整備する必要があるんだ。



3 財務諸表から見た財務状況

(1) 損益計算書

損益計算書は、水道事業がどのような経営活動によって、どれだけの経営成績（黒字or赤字）を上げたのかを知るための財務諸表です。令和7年度決算の損益計算書は、次のとおりです。

▽損益計算書

（単位：百万円、税抜き）

科 目	令和7年度	令和6年度	増 減
営業収益 ①（皆さまからいただいた水道料金などの収入）	4,682	4,733	▲ 51
給水収益（水道料金収入）	4,380	4,426	▲ 46
加入金、下水道受託収益、その他営業収益	302	307	▲ 5
営業費用 ②（きれいな水を作り、お届けするための費用）	4,787	4,487	300
原水及び浄水費、配水費、給水費、総係費、業務費	2,479	2,238	241
減価償却費、資産減耗費	2,308	2,249	59
営業利益（▲は営業損失）③（①－②） 通常の業務活動の損益の結果	▲ 105	246	▲ 351
営業外収益 ④（一般会計などからの補助金）	567	551	16
他会計補助金	9	9	0
長期前受金戻入収益	503	501	2
受取利息及び配当金、雑収益など	55	41	14
営業外費用 ⑤（企業債の借入れに伴う利息などの費用）	185	192	▲ 7
支払利息及び企業債取扱諸費	178	180	▲ 2
雑支出	7	12	▲ 5
経常利益 ⑥（③＋④－⑤） 通常の業務活動の損益の結果に加えて資金調達等に関する損益の結果	277	605	▲ 328
特別利益 ⑦	0	67	▲ 67
特別損失 ⑧	0	0	0
純利益 ⑨（⑥＋⑦－⑧） 1年間のすべての損益の結果	277	672	▲ 395

損益計算書から見た令和7年度決算について

◆給水収益（水道料金収入）

基幹収入である給水収益は、43億8,000万円となり、前年度と比べ4,600万円（▲1.03%）減少しました。毎年給水収益の減収が続いており、非常に厳しい状況と捉えています。

◆営業利益（▲は営業損失）

営業費用は労務費の上昇により委託料などが増加したほか、固定資産の除却に伴う資産減耗費などが増加したため、前年度と比較し3億円増加し、営業利益は3億5,100万円減少しました。これにより、通常の業務活動においては赤字となり、▲1億500万円の営業損失となりました。

◆純利益

給水収益は減少し、営業費用が増加したことにより純利益（黒字）は2億7,700万円となり、前年度と比べ3億9,500万円（58.68%）減少しました。

◆今後の展望

水道施設の強靱化を含めた更新をすすめる費用を確保するため、令和8年7月に料金改定を行うこととなりました。これにより給水収益の回復が見込まれ当面5年間の更新費用を賄う純利益を確保できる見込みとなるものの、給水人口の減少による減収や物価高騰による費用の増大は続く見込まれるため今後も厳しい経営状況が続きます。

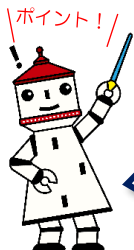
(2) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末において保有しているすべての水道資産がどのような財源でつくられたのか（資産＝負債＋資本）を表す財務諸表です。令和7年度決算の貸借対照表は、次のとおりです。

（単位：百万円、税抜き）

▽資産がどのような状態で、いくらあるのか

資 産 の 部	令和7年度	令和6年度	増 減
固定資産	52,482	51,492	990
有形固定資産	119,059	116,956	2,103
有形固定資産減価償却累計額	▲ 66,809	▲ 65,665	▲ 1,144
無形固定資産	232	201	31
投資その他の資産	0		
流動資産	5,738	6,524	▲ 786
現金預金	5,256	6,176	▲ 920
未収金	446	313	133
その他	36	35	1
資 産 合 計	58,220	58,016	204



ポイント!!
古くなった水道管や施設などは、お金を借りて整備しているんだけど、次の世代の負担にならないように計画的に借りていかないだね。

▽資産がどのような財源でつくられたのか

負 債 の 部	令和7年度	令和6年度	増 減
固定負債	15,887	15,499	388
企業債	14,501	14,168	333
引当金	1,386	1,331	55
流動負債	2,593	2,774	▲ 181
企業債	1,355	1,359	▲ 4
引当金	62	60	2
未払金	946	1,117	▲ 171
預り金等	230	238	▲ 8
繰延収益（長期前受金）	9,298	9,625	▲ 327
負 債 合 計	27,778	27,898	▲ 120
資 本 の 部	令和7年度	令和6年度	増 減
資本金	24,432	23,460	972
剰余金	6,010	6,658	▲ 648
資本剰余金	494	489	5
利益剰余金	5,516	6,169	▲ 653
資 本 合 計	30,442	30,118	324
負 債 ・ 資 本 合 計	58,220	58,016	204

《用語解説》

有形固定資産

土地や建物、水道管、機械設備など

無形固定資産

刈谷田川ダムを使用する権利など

流動資産

現金・預金と1年以内に現金化できる資産

企業債

1年以内に返済する予定の額は流動負債に、1年を超えて返済する予定の額は固定負債にそれぞれ整理

未払金

1年以内に支払わなければならないもの

預り金等

税金や社会保険料、下水道使用料など預かっている現金など

繰延収益（長期前受金）

固定資産を取得する財源となった国庫補助金など

資本金

純利益や一般会計出資金などを組み入れた額

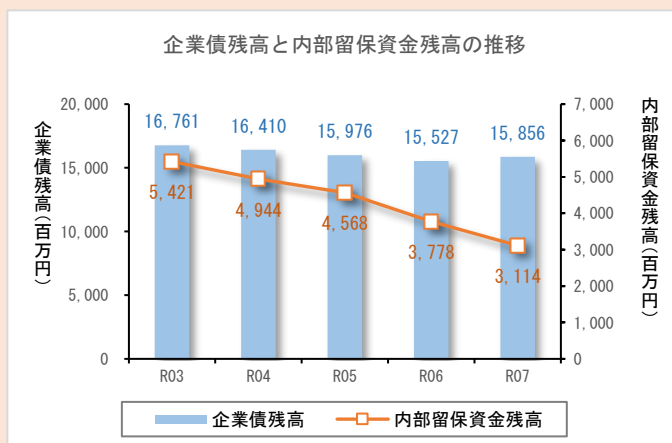
利益剰余金

純利益と企業債の返済を目的とした積立金など

貸借対照表から見た令和7年度決算について

一般的に水道事業は、水道管や施設をつくる財源の大部分を借入金に頼っていることから、企業債が多くなる傾向にありますが、長岡市はこれまで蓄えてきた内部留保資金を活用して借入額の抑制に努めてきたため、右グラフのとおり企業債残高を減らすことができていました。

しかし、給水収益の減少や、老朽化した水道管や施設などの更新費用の増加により、令和7年度は企業債の借入額が増えて企業債残高が増加しました。今後も同様の傾向が見込まれるものの、内部的留保資金の状況を勘案しながら、計画的な更新に努めていかなければなりません。



(3) キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、1年間における現金の収支状況を活動区分別に表した財務諸表であり、損益計算書や貸借対照表では読み取れない「現金の流れ」を確認するためのものです。令和7年度決算のキャッシュ・フロー計算書は、次のとおりです。

▽キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、税抜き)

資金期首残高	①	6,176
令和7年3月31日時点の現金残高		
業務活動によるキャッシュ・フロー	②	2,070
事業の主たる業務活動による現金の出入り（水道料金や施設の維持管理費など）		
投資活動によるキャッシュ・フロー	③	▲ 3,361
設備投資等による現金の出入り（有形固定資産の取得費や売却代金、国庫補助金の収入など）		
財務活動によるキャッシュ・フロー	④	371
外部からの資金調達とその返済による現金の出入り（補助金、企業債の借入れや返済など）		
資金期末残高	⑤ (②+③+④)	5,256
令和8年3月31日時点の現金残高		
資金増減額	⑥ (⑤-①)	▲ 920
前年度との比較		

○キャッシュ・フロー計算書の読み方

令和7年度の決算の状態

	業務活動	投資活動	財務活動	説明
パターン①	プラス	マイナス (▲)	マイナス (▲)	本業の業績は概ね良好であり、借入金残高を減少させつつ建設改良に係る投資も実施しており、 比較的良好的な経営状況にあると想定される。
パターン②	プラス	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は概ね良好であるが、建設改良に係る投資財源を借入金に依存し、かつその残高が増加しているため、 今後の返済負担増加が想定される。
パターン③	マイナス (▲)	マイナス (▲)	プラス	本業の業績は厳しく、建設改良に係る投資財源に加え、日常の運転資金も借入金に依存している可能性があり、 資金繰りが非常に厳しくなっていると想定される。

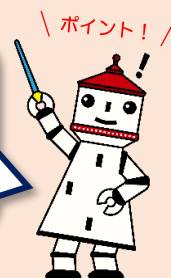
※損益計算書や貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の詳細は、[令和7年度長岡市水道事業会計決算書](#)をご覧ください。

キャッシュ・フロー計算書から見た令和7年度決算について

水をつくるための設備投資や企業債の返済を賄うだけの現金を有しており、上表のパターン②に該当していることから、本業の業績は概ね良好なものの今後の返済負担が増加していくことが想定されます。

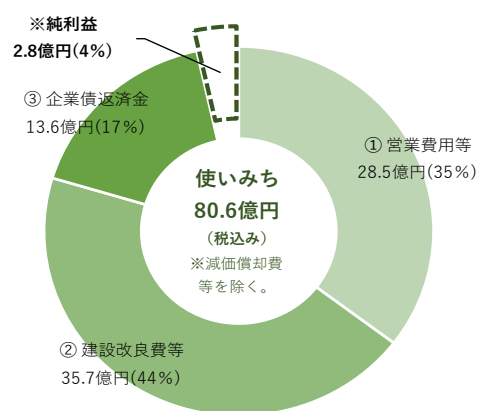
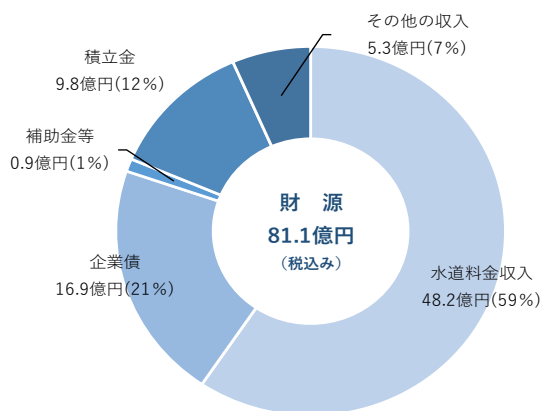
しかし、業務活動と投資活動のキャッシュフローを合わせると、約12.9億円のマイナスとなることから、積立金の取り崩しや借入れにより、更新等の投資を行っている様子がわかります。今後、給水収益減少と更新費用増加が見込まれるなか、積立金残高や借入金返済額など、現金の動きに注意して経営を維持していく必要があります。

黒字だから経営は大丈夫だ
という訳でなく、現金の動き
にも注意する必要があるん
だね。



4 水道料金とその使いみち

令和7年度の水道事業の運営における財源とその使いみちは、次のとおりです。



水道事業は、お客さまからいただいた水道料金を主な財源として運営をしています。

ただし、水道料金収入だけでは事業運営はできないため、水道管の新規布設や古い水道管の布設替え、浄水場などの施設を整備するための財源として企業債を借り入れています。

その他の収入としては、国や一般会計からの補助金のほか、積立金などがあります。

財源の使いみちとしては、大きく3つに分類されます。

①水をきれいにし、ご家庭などに届けるための費用

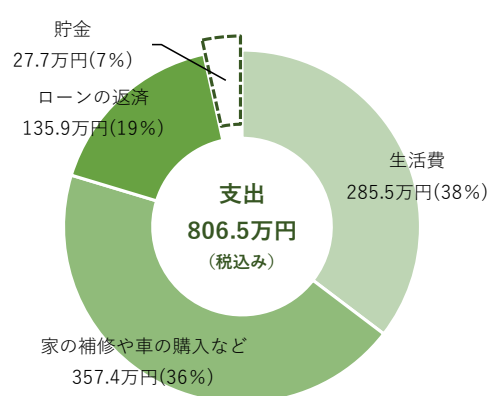
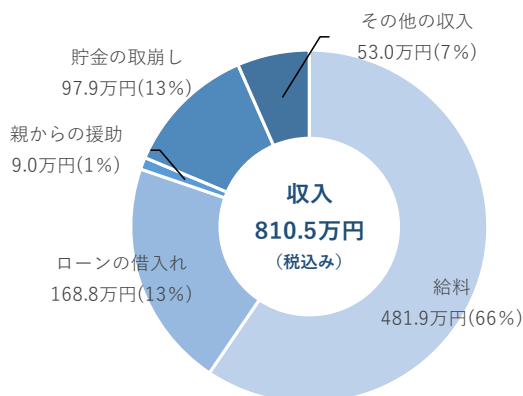
②水道管の新規布設や古い水道管の布設替え、浄水場などの施設を整備するための費用

③過去の工事等のために借りたお金の返済

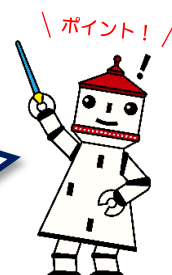
※純利益は、翌年度以降の企業債の返済のために積み立てました。

◆上記のグラフを家計簿に例えてみると・・・

本来であれば、給料の範囲内で家計を賄えることが理想ですが、家の補修や車の購入にたくさんのお金が必要となりますので、不足する分をローンで補っています。これから給料が増える可能性は低いため、ローンを上手に活用したり、生活費を切り詰めたりするなどの努力をしていく必要があります。



今のところ、将来への積立をしながら、事業運営ができていけど、これからは水道料金収入が減り、水道管の入替えや施設の整備にたくさんの費用がかかるため、経営は厳しくなる見込みなんだ。
経営戦略に基づいて事業を実施し、これからも安全でおいしい水を届け続けるね！



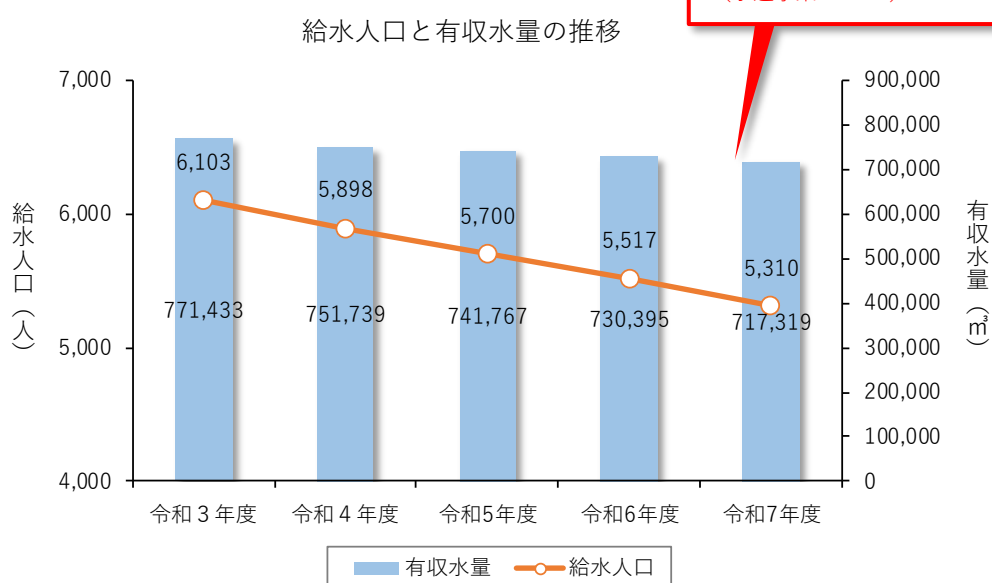
令和7年度長岡市簡易水道事業の決算概要について

ここからは簡易水道事業の決算の概要を説明します。



1 給水状況

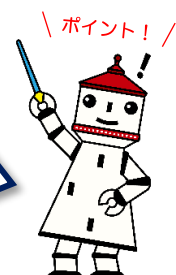
山古志地域、小国地域、栃尾地域及び川口地域に14地区の簡易水道（小規模水道を含む。）があります。これらの簡易水道は、主に中山間地域にあり、少子化や市外への転出などにより、給水人口の減少が進行しています。



家庭用の使用水量は、給水人口の減少などにより減少しました。営業用やプール用などは増加し、業務営業用は前年度に比べ 3,539 m³増加しましたが、家庭用の使用水量が減少したため、有収水量は全体で 13,076 m³（▲1.8%）減少しました。

用 途	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度増減
	m³	m³	m³	m³	m³	m³
家 庭 用	524,251	502,310	484,740	469,903	455,330	▲14,573
業 務 営 業 用	150,792	157,516	161,754	167,702	171,241	3,539
工 業 用	94,564	89,740	93,036	91,191	88,749	▲2,442
そ の 他	1,826	2,173	2,237	1,599	1,999	400
合 計	771,433	751,739	741,767	730,395	717,319	▲13,076

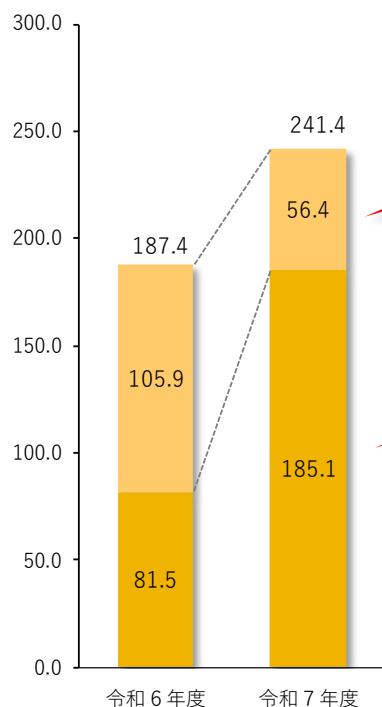
有収水量の主な用途は、やはり家庭用（6割）だね。
ただ、水道事業に比べ人口規模が小さいので、簡易水道の有収水量は、業務営業用や工業用の使用水量で変動しやすい傾向にあるんだ。



2 水道管や施設の整備（建設改良費）

令和7年度の建設改良事業は、水道管の布設替えを実施したほか、沈でん池傾斜板や除塵設備などの更新を実施しました。

（百万円） 建設改良費の前年比較



◆水道管の更新（量水器費除く）

漏水や濁り水を減らすため、老朽化した水道管の耐震管への布設替えを行いました。

- ・水道管の布設替え φ50mm～φ100mm L=55.7m

◆浄水場の施設整備

安全な水を安定的に供給するため、浄水場の設備などの更新工事を行いました。

- ・明道浄水所除塵設備更新工事（栃尾地域）
- ・中山浄水場ろ過設備更新工事（川口地域）
- ・虫亀浄水所次亜注電気設備更新工事（山古志地域）
- ・西倉浄水所導水ポンプ更新工事（西川口地域）ほか

3 財務状況

(1) 損益計算書

地方公営企業の経営は、独立採算制を建前としていますが、簡易水道事業は給水人口が少ないことから、給水収益だけでは費用を賄うことができず、営業損失が生じています。この収支不足分を補うため、一般会計から補助金の交付を受けて事業運営を行っています。

▽損益計算書

（単位：百万円、税抜き）

科 目	令和7年度	令和6年度	増 減
営業収益 ① (皆さまからいただいた水道料金などの収益)	131	128	3
営業費用 ② (きれいな水を作り、お届けするための費用など)	443	445	▲2
営業損失 ③ (①－②) 通常の業務活動の損益の結果	312	317	▲5
営業外収益 ④ (一般会計からの補助金など)	404	400	4
営業外費用 ⑤ (企業債の借入れに伴う利息などの費用)	22	21	1
経常利益 ⑥ (③＋④－⑤) 通常の業務活動の損益の結果に加えて資金調達等に関する損益の結果	70	62	8
特別利益 ⑦	0	0	0
特別損失 ⑧	5	5	0
純利益 ⑨ (⑥＋⑦－⑧) 1年間のすべての損益の結果	65	57	8

(2) 貸借対照表

水道管や設備などの施設更新は、企業債を財源として実施しており、令和7年度は2億2,930万円の企業債を借りました。前年度と比較して建設改良費が増加したことに伴い、企業債の借入額も前年度より増加しました。借入額が償還額を上回ったことで、企業債残高は前年度より2,140万円増加しました。

(単位：百万円、税抜き)

▽資産がどのような状態で、いくらあるのか

資 産 の 部	令和7年度	令和6年度	増 減
固定資産	4,653	4,650	3
有形固定資産	10,837	10,622	215
有形固定資産減価償却	▲ 6,235	▲ 6,025	▲ 210
累計額			
無形固定資産	51	53	▲ 2
流動資産	248	211	37
現金預金	224	178	46
未収金	23	32	▲ 9
その他	1	1	0
資 産 合 計	4,901	4,861	40

▽資産がどのような財源でつくられたのか

負 債 の 部	令和7年度	令和6年度	増 減
固定負債	1,702	1,673	29
企業債	1,662	1,638	24
引当金	40	35	5
流動負債	269	259	10
企業債	206	208	▲ 2
引当金	4	5	▲ 1
未払金	58	46	12
預り金等	1	0	1
繰延収益（長期前受金）	1,549	1,613	▲ 64
負 債 合 計	3,520	3,545	▲ 25
資 本 の 部	令和7年度	令和6年度	増 減
資本金	1,163	1,131	32
剰余金	218	185	33
資本剰余金	16	16	0
利益剰余金	202	169	33
資 本 合 計	1,381	1,316	65
負 債 ・ 資 本 合 計	4,901	4,861	40

(3) キャッシュ・フロー計算書

令和7年度の業績は概ね良好であり、借入金残高を減少させつつ建設改良に係る投資も実施したことから、良好な経営状況だったと言えます。(P6「キャッシュ・フロー計算書の読み方」参照)

▽キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、税抜き)

資金期首残高	①	178
令和7年3月31日時点の現金残高		
業務活動によるキャッシュ・フロー	②	239
事業の主たる業務活動による現金の出入り（水道料金や施設の維持管理費など）		
投資活動によるキャッシュ・フロー	③	▲ 215
設備投資等による現金の出入り（有形固定資産の取得費や売却代金、国庫補助金の収入など）		
財務活動によるキャッシュ・フロー	④	21
外部からの資金調達とその返済による現金の出入り（補助金、企業債の借入れや返済など）		
資金期末残高	⑤ (②+③+④)	223
令和8年3月31日時点の現金残高		
資金増減額	⑥ (⑤-①)	45
前年度との比較		

※損益計算書や貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の詳細は、

[令和7年度長岡市簡易水道事業会計決算書](#)をご覧ください。

将来の見通しについて

令和8年度の料金改定により一時的に給水収益は増加見込みですが、人口減少に伴って給水収益が減少することに加え、老朽化した施設等の更新事業費が増加するため、より厳しい経営状況に推移していくことが見込まれます。今後も、更なる業務の効率化や資産のスリム化、経費の節減に努めます。